

小学校におけるオンライン授業

副校長 細井宏一

学校の臨時休業が続いています。児童の皆さんは、ご家庭でどのように過ごしているでしょうか。

児童が登校できない状況下、教育活動をどのように行うかが各学校の課題となっています。注目されているのがネットを活用したオンライン授業です。2月頃、あるTV番組で、アメリカのミネルバ大学が紹介されていました。この大学はキャンパスを持たない大学で、授業は全てオンライン授業で行われるそうです。キャンパスは無いが、学生寮を世界の幾つもの国に持っていて、その寮で学生は生活し、数ヶ月するとまた次の国の学生寮に移って生活するというように世界各国を転々とします。そしてその国毎に地域貢献が課せられていて、多様な文化に触れながら多くの体験をしで学んでいくそうです。授業は、違う国に滞在する教授と学生とでオンラインで行われ、内容は講義ではなく学生のディスカッションが中心ということでした。学生の学力はとても高いそうです。今までにない斬新な発想で、これで大学が成立することに驚きましたし、「大学」というものの概念を覆される思いがしました。

日本の大学や高校でも、今、一気にオンライン授業・ビデオ授業が進んでいるようです。多くの大学で、入学と同時に学生一人一台にPCを購入することが課せられているので、自分でセットアップして、接続設定をしてオンライン授業やビデオ授業などを受けているようです。

では、小学校でオンライン・ビデオ授業を実践するのはどうでしょうか。ICTの進んでいる学校では既に実施されていて、本校も情報を集めています。小学生の場合、大学生とまず違うのは、児童だけでPCの設定をしたり、ネットにつないだりすることができないということです。高学年児童ならできる子もいるかもしれませんが、殆どの児童は保護者の協力なくしてはできないでしょう。また、児童一人にPC一台購入ということも、本校では全ご家庭にお願いしていることではありません。

授業方法ですが、オンライン授業は、環境が整えば、教師の問いかけに対する児童の反応がライブでわかり、双方向のやりとりができるので、教室のようにできるかもしれません。しかしながら実践している方の話を伺うと、やりにくさもあるようです。「少人数ならよいがクラス30名だと音が重なってわかりにくい」「児童の集中力が続かない」「PC1台を長時間占有してしまうので、保護者のテレワーク等、PCを使う人が家庭の中いると重なってできない」「全員が繋がるまで待つ時間が長い」「回線の容量が不足しそう」「短時間なら…」などです。

その点、ビデオ授業が一番現実的です。教師がビデオの中で課題を出したり解き方を教えたりして、その後自学で確かめるといった感じでしょうか。都合のよい時間に繰り返し視聴することができます。仲間と学びあう授業とはいきませんが、児童が自分のペースで学習を進められるのはよいことかもしれません。

「児童が登校できない中で、教育活動をどう進めるか！」これまで考えたことがありませんでした。できれば本校でも、全児童にタブレットを配付し、自宅で授業を受けられればよいですが、残念ながらそれだけの台数を本校は現在保有していません。しかし、すでに各家庭でPC・タブレットをお持ちであれば、それを活用させていただき実施できないかと考え、4月中旬に各ご家庭にネット・PC保有環境の調査をしました。全ての方からご回答をいただき、結果は約95%の方から「ネット環境とPC・タブレットはある」とのことでした。また「スマホで短時間ならできる」「Wifiはあるので、タブレットさえあればできる」というご事情等があることもわかりました。

今のところ学校は5月11日再開ですが、更に延長・長期化する可能性もありますので、一歩踏み出すことが重要と考え、学校タブレットを困っている方にレンタルするなど、できる限りの対応をして、オンライン活用教育の取組を開始したいと考えています。まずは、Zoomという会議ツールを活用して15分程度の朝の会をクラス毎に実施するよう準備を始めました。運用を始める際、接続設定などはご家庭の皆様にもご協力をいただくことがあると思われます。できるだけ皆様の負担が大きくなるよう探って参りますが、多少お力添えをお願いすることもあるかもしれません。準備が整い次第、ご連絡いたしますので、その際はご協力の程、よろしくお願ひいたします。

児童が学校に来られる日の到来を願うとともに、児童と再会できることを楽しみにして待ち望んでいます。